

事業者における放課後等デイサービス自己評価結果（公表）

公表:令和2年3月24日

事業所名:放課後等デイサービスのため・ぺつぷ

※ チェック項目 ○=はい △=どちらともいえない X=いいえ						
	チェック項目	○	△	X	工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%	0%	0%	・安全に運動ができるスペースを確保している。 ・2018年5月に開所した3つ目の教室は、高学年も十分な運動ができるスペースを確保した。	
	② 職員の配置数は適切であるか	100%	0%	0%	・適切に加配している	
業務改善	③ 業務改善を進めるための、PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	85%	15%	0%	・周知が必要な書類を回覧形式にしている	・職員間で改善項目について検討することはできているが目標を明確にし、共有することが課題。決定事項の共有を目標に取り組んでいく。
	④ 保護者向け評価表を活用する等により、アンケート調査を実施して、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	93%	7%	0%		・保護者の意向からあらたに設定した業務について周知徹底できるよう今後もMTやホワイトボード等を活用していく。
	⑤ 職員の資質向上を行うために、研修の機会を確保しているか	93%	7%	0%	・定期的に事業所内での研修を行っている。 ・開催頻度は高くないがスキルに合わせた研修を行っている。	・全職員に外部研修の受講機会を与えていく。(継続)
適切な支援の提供	⑥ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	100%	0%	0%	・毎週2時間のミーティング時間を設け支援計画を作成している。	
	⑦ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%	0%	0%	・チームに分かれプログラムの立案を行い全体で共有。	
	⑧ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	93%	7%	0%	・基本のプログラムは変わらないが、日々の療育内容に変化をつけ行っている。 ・遊びの選択ができるように遊具環境を工夫している。	
	⑨ 通常プログラムの他に、時期や長期休暇を考慮したプログラム内容を設定しているか	100%	0%	0%	・クリスマスイベント・スキーレッスン会、走り方教室、自転車教室など開催している。 ・毎月(1週)特別プログラムの歳、季節感のあるおやつを提供している。	・今年度は夏冬、季節に応じたイベントを開催。 ・長期イベントに関しても、念入りに設定・準備を行っている。
	⑩ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援内容や役割分担について確認しているか	100%	0%	0%	・朝礼後のミーティングで行っている。	・改善されている
	⑪ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	87%	7%	7%	・支援終了後は送迎や日誌の作成で時間がないため、翌日の朝礼後行っている。 ・特別な事項があった際などは、その日のうちに情報交換している。	・送迎等でMTに参加できない職員への周知方法として、個別に伝達するなど対応していく。
	⑫ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%	0%	0%	・記録(個別日誌)に児童の目標(支援P)を記載し、日々確認し療育にあたっている。 ・少ない時間の中でできる限りの記載をしている。	・改善されている。
	⑬ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	100%	0%	0%	・計画書作成前に必ずミーティングを行っている。	
⑭ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	100%	0%	0%	・公共施設での活動など行っている。	・改善されている	
関係機関や保護者との連携	⑮ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に、その子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	93%	7%	0%		・行っているが十分ではない。課題である対応可能な職員の育成に務める。(継続)
	⑯ 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	100%	0%	0%	・保護者に学校との情報共有についての可否を確認している。	・改善されている
	⑰ 医療的ケアが必要な子供を受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	62%	23%	15%	・対象となる児童がいない。	・対象となる児童を受け入れた場合は保護者を通して行っていく。主治医等との連絡調整が難しいことが課題。

関係機関や保護者との連携	⑱	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	93%	7%	0%	・保護者の要望がある際は行っており、支援プラン等共有している。	
	⑲	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	100%	0%	0%	・研修には多くのスタッフに参加してもらった。 ・センターとは高頻度でやりとりしている。	・助言をして頂けるよう働きかけ、参考となる意見をいただけた ・改善されている。
	⑳	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	85%	15%	0%	・極力行けるようにしている。	
	㉑	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%	0%	0%	・連絡帳や電話でのやり取りなど工夫している。	・改善されている
	㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	77%	23%	0%	・月に2回開催している発達相談師を講師に招いての「あつまる会」を3部制にし1部:講座(ペアトレ)2部:座談会、3部:保護者会を開催。新年度は月1回の開催で継続する。	・職員に会の内容が理解されていなかったため新年度は職員にも参加の機会を与えていく。(継続)
保護者への説明責任等	㉓	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%	0%	0%	・契約前の見学の際にはお子様に体験もいただき利用者負担等についてもパンフレットをお渡しし説明している。(継続)	
	㉔	保護者からの子育ての悩み等に対する相談を適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%	0%	0%	・保護者からの希望に応え面談等を行っている。(継続)	
	㉕	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%	0%	0%	・毎日行っている朝礼(全職員参加)で保護者様からの注意事項についても共有している。(継続)	
	㉖	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	0%	・毎月お便りの発行、メールでのお知らせ等実行している。(継続)・新年度からはwebも活用し、情報提供していく。	
	㉗	個人情報に十分注意しているか	100%	0%	0%	・同意書を得ている。	・改善されている
	㉘	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のため配慮しているか	100%	0%	0%	・連絡帳にてやり取りを行っている。 ・定期的な面談の他、電話での情報交換	・改善されている
	㉙	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	62%	15%	33%	・空きスペースを開放し、保護者・地域の方向けのヨガ教室等を行っている。HPで公表している。 ・保護者や地域の希望者を募ってのあつまる会(子育てのための勉強会)の開催(継続)	・事業所の行事に地域の方を招待する等については今後検討していく。個人情報の漏洩が課題。(継続)
非常時等の対応	㉚	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	100%	0%	0%	・マニュアルを配布している。(継続)	・周知しているがいざというときに動けるような事前準備を行う。(継続) ・マニュアルをHPでも公開した ・改善されている
	㉛	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%	0%	0%	・4月・9月年2回開催。	・災害の発生時に必要なものを1箇所にまとめ対応できるよう準備した。 ・改善されている
	㉜	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	93%	7%	0%	・マニュアルによる周知	・新入社員にも随時研修機会を設けていく。(継続)
	㉝	どのような場合に、やむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	86%	7%	7%		・やむを得ず身体拘束を行うかについては、研修を踏まえ決定する。児童発達支援計画に記載するかは都度検討していく。(継続)
	㉞	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	85%	15%	0%	・アレルギーの注意が必要な児童一覧表を作成・日々の出席簿にもアレルギー対応を記載(継続)	・保護者からの申し出のみとなっているため、医師の指示書を見せて頂けるよう働きかける。(継続)
	㉟	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	93%	7%	0%	・事故報告書の担当がヒヤリハットを作成、事業所内で共有することができた。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。